



# 直峰通信

令和5年3月17日(金)発行

## 卒業おめでとう

3月6日(月)、県立高田高等学校安塚分校の第6回卒業証書授与式が行われました。例年に比べ、雪解けも早く、暖かな春の陽気に包まれました。山田校長先生は式辞で、詩人の高村光太郎が残した言葉「僕の前に道はない。僕の後ろに道は出来る。」という言葉を用い、「大きな変革の時代へ向け、自分の選んだ道が最良の道であると信じて、自分自身の道を切り拓いて行ってほしい。」と卒業生に、はなむけの言葉を贈りました。



送辞では、2年生の代表者が、3年生との思い出や楽しかった学校行事での出来事、先輩からたくさん学んだことへの感謝の気持ち、そしてその教えを受け継ぎ、来年度へ向けての決意を力強く述べました。それに対し、卒業生を代表して旧生徒会長が答辞を行い、入学当初はコロナウイルス感染拡大による一斉休業で不安だったこと、いろいろな制限の中で学校行事が延期、縮小されたこと、それでも知恵を出し合って乗り越え、クラスメイトとたくさん思い出を作ることができたことと述べました。また、2年生への激励の言葉、これまで育ててくれた家族やお世話になった先生へのお礼の言葉や感謝の気持ちを伝えました。二人とも緊張したと思いますが、とても落ち着いていて、立派に務めてくれました。

国歌、校歌斉唱や卒業証書授与などの場面では、音楽科の大野先生がピアノで伴奏、演奏してくれ、卒業式を厳粛に、時には和やかでやわらかな雰囲気演出してくれました。卒業生の皆さんは、4月から新しい環境で、それぞれ違う道を歩むことになります。新しい生活に喜びや希望で満ちあふれていると思いますが、時にはうまくいかず、不安になることもあるでしょう。その時は、安塚分校で学んだことや経験を思い出して、自信を持って力強く進んで行ってほしいと思います。

ご多用の中、ご臨席いただきました来賓の皆様をはじめ、ご参加いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。



2年生 代表者による送辞(写真左)と卒業生代表者による答辞(写真右)の様子

雪の中の作業お疲れ様でした

## 安塚キャンドルロード

2月25日(土)「灯の回廊」安塚キャンドルロードに生徒7名、保護者3名、教職員5名の計15名で参加しました。当日は朝から小雪が舞う中での作業となりましたが、昨年度も参加した生徒、保護者の方が数名おり、効率よく作業を行いました。学校前の県道脇には、ペール缶に詰めた雪を逆さにし、灯籠のような形を作りました。そこにスコップで穴を開け、ろうそくを入れた紙コップを置いていきます。作業を分担、協力し合うことで、あっという間にたくさんの雪の灯籠ができあがりました。その後、校門前の雪の斜面に登り、穴を開けていきました。急斜面でも作業がしやすいよう、教職員2人が斜面に道を作りました。おかげで、短時間で完成させることができました。



夕方、生徒と保護者の方からも協力していただき、ろうそくの点灯作業を行いました。合計300本のろうそくを設置しましたが、日が落ちる前にすべてのろうそくに火を灯すことができました。また、地域の方が穴開け作業や翌日の回収作業を手伝ってくれました。雪の中での作業は大変でしたが、心が温かくなる、思い出に残る体験ができました。この日は、安塚区に多くの方が訪れ、幻想的な風景を楽しんでいました。

キャンドルの柔らかな灯に照らされる安塚分校。前方には雪の灯籠、後方には4階校舎窓から吊した電飾によるツリー

## スキー授業

2月28日(火)キュービットバレイスキー場で2年生がスキー授業を行いました。当日は朝から汗ばむほどの陽気で絶好のスキー日和となりました。開会式で、代表生徒が「今年度が安塚分校として最後のスキー授業となるため、思いっきり楽しみたいです。」と元気に宣言しました。



見渡す限りの青空と白い雪のコントラスト

初級と中・上級の2班に分かれ、念入りに準備運動を行った後、講習が始まりました。この日は平日ということもあってか、ゲレンデが混雑することもなく、有言実行、宣言どおりに存分に楽しむことができました。また今年の学校スキーの最終受入れが安塚分校とのことでした。思い出となるこの日、まぶしい太陽の下、澄み渡った青空と米山、そして遠くには佐渡島まで見渡すことができました。

今年度最後の「直峰通信」となります。1年間ありがとうございました。



新潟県立高田高等学校安塚分校

【担当 教頭 滝澤 祐樹】

〒942-0411 上越市安塚区下方129番地

Tel 025-592-2306 FAX 025-592-3541

HP <http://www.takada-h.nein.ed.jp/>

mail school@takadayszk-h.nein.ed.jp